

すずむし

Vol. I, No. 10

1951年10月
倉敷昆虫同好会ものいわぬは
腹ふくるるかざなれば

日本で昆虫を研究している人は、専門家は勿論アマチュアの人でもその数は非常なもので況して他の文明国に比してその数に於ては劣りはしない。と云ふ事で聞いた言葉である。蜻蛉が多からアキソ島?とも呼ばれる複雑な地形と気候とは多種の種類と非常に多くの個体を産することになったのであろうが、その功罪はともかく身近に無数に居るこれらの昆虫に対して一般の人びと如何だけの关心を抱っているであらうか。我々は虫世界問外のことに関しては無関心の場合が多い。電機は門外漢だから、音楽は僕は分らないからとまるでそれを語りやかに語る隣人をあなたは見正しことはないと言えますか。

この間倉敷商工會議所で科学展が開かれ市役所の科学講師が来ってそれを紹介されたわけだが蜘蛛は昆虫だろうと云うので昆虫と一緒にしている先生、蜘蛛は昆虫じゃなくて全く別の種であると僕々と説明する先生。それを聞いて感心する先生
これが科学教育に当つている教師
なのである。

鳥や貝が昆虫空のか、ほっさり
とその理由の考える人がいくらい
るのだろう。ましてカイガラムシ
やトビムシ等を昆虫だと考えてい
る人はもっとも少くないに違
はず。

“昆虫はゆしはねちん、それは専
門家がやればいい”なんてワニマ
ンモドキに嘯ひひひひひひのだろ
うか。



2 (58)

同将令は沢山でさても下界から高反しにもの好みの旅事ではその沿岸に並ぶない。そしれだ意味では川でも楽しめる博物館がほしい。ミニ旅行には色々な動物が飼つてある。美しい蘇平が手に取つて見られる。極も極るお飼い立てもくても守護に使ひる天体望遠鏡である。生態を写して映画が上映されてゐる。こんな博物館をほしへとは思ひませんか、帶びて?

どうかも知れない。然し理想へ近づく努力をおじんひはなむ。又木メトは『我にニフのパン有らば其の一つを食ひてヒヤミンスを買川ん』と言つて是うだがニシレた自然を愛する人の集まる中心が出来たらば人に愉快だらう。この雑誌の一つの方向としてニシレた言論雑誌として利用するニヒセ今更お進めしれ!。君歎工才若り能之。

T.Y. 12. X. 1951

ズイムシサムライコマユ の生育と温度

中塚憲次

昆虫が或る時期に特殊な環境に遭遇した場合、昆虫は所謂異常な生育現象を表すことがあります。

一般に生育の有効温帶内にあっては高温ほど生育が促進され、逆に低温ほど遅延することによつて何が判断出来る。

筆者は寄生蜂/稚ズイムシサムライコマユ(*Aparanteles flavipes* CAMERON)を使って高低温に不生を收容し、その後に差しれる寄生率即ち生育について調査してみたが、簡単に要約して次の二ことが言えるのではないかと思われる。(以下述べる高温、低温は高温25°C、低温20°Cの意味である)

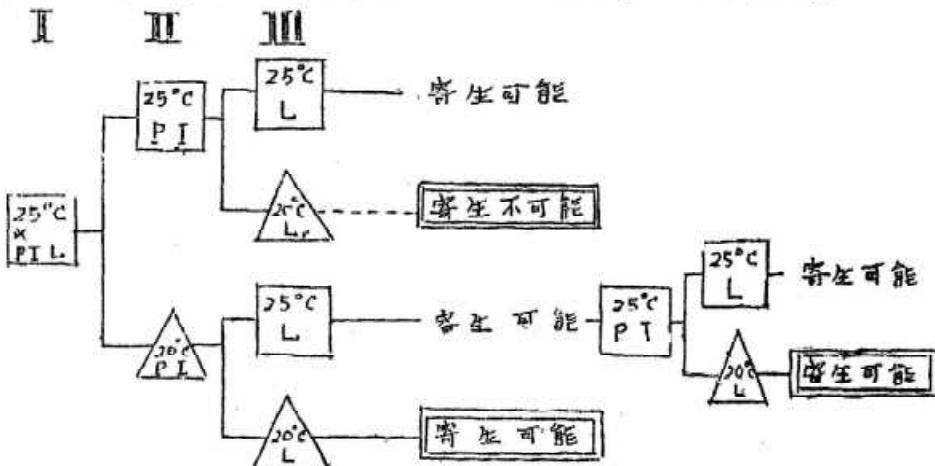
- 1) 高温下寄生と低温下寄生を比較した場合高温下寄生方が寄生率が高い。
- 2) 寒温下で産卵寄生したもの在低温下に移すと孵化不能するものは見当しない。(生育不可能)
- 3) 併し、蛹期在低温下に経過(後退)した場合には、卵・幼虫の寄生率高温下の場合と同様可能である。
- 4) 蛹期低温で孵化した成虫を低温下で寄生させると

*石倉、深谷訳 1949年 昆虫学最近の進歩を参照されたい。

高温に移しても寄生可能である

- 5) 虫を低温で経過させその後高温下で一世代を経過させても、次の卵、幼虫は低温下で生育出来る。

以上5つの項目について見ながらそれを図に示すと次の様になる



備考 ※ P, 球, I, 成虫, L, 幼虫

要約 3)は一種の耐低温性の獲得(低い温度에서도生育出来る様になる)を意味する事であつて、本編の重要な意義を持つモノである。

以上簡単に述べたが、非常に面白い現象である。

最後に温度と昆虫の関係については色々と問題があるので、諸君も二方

面に目をつけられる事が大切な様に思われます
なお本稿はすでに深谷昌次博士と共に「雑虫」vol. 18, part 6, pp. 12~15
1950年に掲載したが、全くやくじかりやすく要約してつもりである。

日本昆虫学会第11回大会

日本昆虫学会第11回大会は10月15日(日)から
16日(水)までの3日間、奈良市の奈良女子大学講
堂で開催されました。第1日、2日は主に講演でE6も
の講演が行われました。岡山県からは岡山大学農
学部から次の先生方の講演があります。

講演題名

4. 小泉寛治(岡山大農) ブタのメマトイについて
23. 安江吉宣(岡山大農) ヤサイツムシの研究第1報
第3日午後エクスカーションへ通った事になります。(0)





ホリハシメヨウ

去る6月30日白神氏に明萬山に屬するホリハシメヨウ (*Cicindela gracilis*, PALLAS) を5頭採集した。

信濃でこの記録はある方に一応報告しておきます。本日の采集された5頭はハサカもかなり早く歩行するだけでも能動力を見在かつた。

(灰野長一)

イチモンジセセリ 螢燈に飛来

電球燈に飛來する事は古くから知られて居り当イチモンジセセリ等も電球に飛來した報告は新聞紙を力強く見らるることであるが近年設置された螢燈に蝶類が飛來したとリラ報告しても螢燈は電燈よりも飛來率が大きくなると思ひ(筆者の知見ではあまりない)のであるが参考道に筆者の觀察例

を報告する。24-IV-1951 午後9時頃信濃市住吉町の大原農業研究所の螢燈上に於いて本同研究会の小野、反野氏等より集中螢燈の後に立てかけてあつた白布にイチモンジセセリ一個体が飛來静止していましたを発見した。個体は完全新鮮であつた。(1951.10.6)

(灰野長一)

ナガサキアゲハ

7月18日放室で餌食を食べていたところが中庭をひらひらと黒いアゲハが飛んで行く。よく見ると後翅に白い紋が五筋(?)だ。モンキアゲハだと思って良く見てみると又二から三枚重なる白い紋がいくつかに小さく分かれているようだ。ナガサキアゲハ? しかし大変ヒ跳び出して見ると屋根に巣っている朝顔の花に翅をひらげて止っている。前翅の翅底にはっきりと赤板ガルタがあり後翅にはほっきり分れた白紋があり外縁から内縁角にはかなり鮮明な赤色の強目紋がある。相当新鮮なナガサキアゲハの半分無尾型なのであろう。大急いで放室から脚を取って来て見ると半分し合いでて朝顔の花が知らん様でニフミフ咲いているのみだつた。住吉町附近をあたりで飛翔し廻ったがどうもその辺は見当らぬ



かつた。

本種は台湾では普通本種類で九州琉球、四国、本州(山口県)等で採集されている。四国では平野の屋敷にもいるをうでとして近く本い瀬戸内海などで岡山県に居る可能性は充分にある。この個体が採集できなかつたのは残念である。

(T.Y.) 12.X. '50

ビワの花ヒ

アカタテハ

まだまだ10月とは言ってもアゲハチョウまで飛んでおりませんが、やがて11月に入ると蝶の姿はめっきり減ってしまいます。この蝶類を飛翔力にどこへ行つたらよりでしらず、私は数年前から11月の中国にいた石と鳥取市から何處へ行く行きました。そこ

には果樹園があり、その頃ビワの花が丁度咲いてあります。ちょっとヒレにその境の気持ちのいい小春日和の日にそこを訪れますと、他の虫達の用者にまじって美しい蝶の姿がそこを見らるるのです。越冬しているタテハが多く、アカタテハ、ヒメアカタテハ、ギタテハ、ルリタテハ等が普通で比較的新鮮なもので、今年も又出かけて見ようと思っていましたが皆さんもう一つ足を御運びに来りませんか。やがて此にはその花にあたらないようにならざなりとうに、不苦痛になり下さに警意と技術が必要です。(小野洋)



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

倉敷産ガムシ科目録

小野洋

今夏大原農研に於て蛍光燈に対するガムシの趋光性について調べていた間に本科のものが少々集つたのでそれを目録を立てさせてます。なおこれらの御同定を賜りつた西京大学生物学教室 中根猛彦先生に深く謝意を表す所第です。

- | | |
|--|-----------|
| 1. <i>Caelostoma stultum</i> . WALKER | ゼヌルガムシ |
| 2. <i>Corcyon sharpi</i> HAROLD | ウスモンケラガムシ |
| 3. <i>Enochrus simulans</i> SHARP | ヤイロヒラタガムシ |
| 4. <i>Sternolophus rufipes</i> FABRICIUS | ヒメガムシ |

6 (62)

- | | |
|---|------------|
| 5. <i>Hydorophilus affinis</i> S ^H ARP | コガムシ |
| 6. <i>Hydorus acuminatus</i> MOTSCHLSKY | ガムシ |
| 7. <i>Amphiers gibbi^u mater</i> S ^H ARP | タマガムシ |
| 8. <i>Berosus lewisius</i> SHARP | ドゲバゴマフガムシ |
| 9. <i>Regimbartia profunda</i> SHARP | スマガムシ |
| 10. <i>Helochares lewisius</i> SHARP | リュイスヒラタガムシ |

まだガムシ等数種は発見出来ると思ひますので皆様の御指導を仰願
いたします。

熱い出で市倉の晴れ

洋野小

去る10月1日から3日間倉敷市の米町商工会議所で倉敷市児童生徒科学作品展覽会が催された。試験中では五つに分かれて青野氏と早速出かけ見て見た。見事見事、会場に並べてある多くの作品中ほとんどものが手写の昆虫標本であり、会場の半分をそれによってうびりている。小学生より幼稚園児多く、それに次いで中学生。高算学生は倉敷老松商の近藤君が一人で万ヶ所以上だ。皆さん熱心によく集め上手に製作している。本会から近藤君をはじめとして若林、阿部、尾崎、山畑のとうとうたろ君氏の出品が見られた。いづれも勿論入賞である。その種類に於ても、製作技術に於ても或はどの點に於ても断然素晴らしい。それはもう一昨年、昨年とは比較にならないほど採集熱が盛んになったのは本ぜだろう。或は我が倉敷昆虫同好会の影響かも知れなりと一人ではく笑んでいる。これらの標本だったが向市場町でウズバガニギリが出来ていた。おとろく鶴形山以外の唯一の記録であろう。

虫狂の私の方から他の方作品を見るのは大して時間もかかり、比較的簡単に目を通す。

植物標本の出品はハーブ本ばかり多かった。

2日目もあまりせずにやって来て盛んにじろじろやっている。

昨日(10月11日)岡山の大蔵屋へ科学作品展を見にいったが、日用品が改め、工夫作品、反射鏡透鏡を中心にして



つて昆虫標本が一番に目に入る。嬉しくなって早速その手へ寄つていった。どうも見た二三ヶ月ぶりの標本だと思って名を見ると、秋がとうとう不吉を初めとした、倉敷での出品者ノホカであった。驚くばかりその会場の昆虫標本はほとんどが倉敷の人のものであり、又倉敷の人の出品物はわざかの植物標本等を除くとそのほとんどが昆虫標本であり多くの人の注目の人気となつてゐたのである。



秋の山野を行く



青野孝昭

岡山大学開學二周年記念で今日(10月22日月曜)は休日である。この日には日頃のウツツンを晴らさんと小野君と黒田ク山へ採集に出かけることにした。小野君が摺りに寄つて奥れることに拿つていらるゝが、ほすむ心を抑えずして準備万端整え、今から今からとアラシ方に、稍遅く現われた冬の寒意を想ひて素早く家を飛び出しそ。秋も半ば過ぎ近ニとして陽光は正午強から下何がしんみりとした落葉蕭条を感じるが、何と言つても山は美しい。二人で心置きなく自由に歩り合えるし、僕ら最愛の昆虫達にはお目に見え得ますし、寒気は良し。左の自然の情景は照るにつづくにつけ僕らの心を感ひて安れまん。

酒津の水川や庄瀬君に出会つた。一度黄リ三人で行く。話題もぱらりと變つた。庄瀬君は秋になつてからもう三度ならず黒田を訪ねに來たりに云のい度いのにウツツン程度に重し、足も行かぬが盛んに新採集地周辺を尋ねてまう。ネットに入れた山の蜘蛛少くないことは事実であつて何とか慧因の虫も毎年段々と減つていてあつたうな気がする。

高梁川に沿つた県道から伯備線の下をくぐつて黒田に入ると急に雰囲気が變る。山の麓に沿つた小径を東へ東へと進むこと常々如し。右側の樹はしつくり實のり、睡の大豆もゴリゴリ太つた。がさがさいう音にイナズマが万能で葡萄の葉裏に萬能丸に作る。暖秋異変に本心と一時苦の水もしてがめほり自然の振舞は争ひないもので難不取れめつたり艶を失ひ枯葉が花も葉も目立つ根に作つたし、可憐な野菊や草薙からも出来たるジージーとハラ雲の声に静かにしひびく。晩秋の感傷をもつて水下に居る。

一行は先づながら大放言を藤返し亭に寄り下りて山へと進んで行く。んでホツにすべき虫も見当らないがそれでも環ではウラナミシジミ、ツスグロモヨウタヌキ、ハ

8 (64)

や秋を象徴するモノがいろいろし、カラバンシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ。イナモンタビリヒカゲキタウ、モンシロウタウ等も見ゆ。キキコナ、ルリバハが見ゆし、アゲの葉裏もさり活動している。高瀬原にて3と今年の秋もやはり黒目でアゲボウタウを摺りださうとして出来なかつた由で利久山道筋入りしてその傍岸に立てて待つ得ぬ。ウラジロギリの多川河原は雲垂れ田原集落も終りに近く、アゲボウタウ等を採る。ヒツヨン准は一般にスミレ類を食草として成り出で街の坂等に産卵し卵は草間に紛れ、一粒幼虫が成生、時移すとて餌食を代り、若葉茎を捕獲し保つ。ウラジロギリの美しい蝶と序二郎物の如き。

遂に畠山集落で7月3日福山に陣下れ(川口)日向白神居を仰ぐ猿田院に到る。後は鶴見町、庄原町、この辺は人間が過所で囃唱をやつたんだ。それから今お囃唱を唄つて小野君と二人で歌ひ、3曲程度を知る前に歌つたのか庄原町へ。宿置方の御門に高瀬原が居候事も聞いと覺えて北山にて。

ウラジロギリといふに大に元気びとこれから福山へ登ることに就れた。川崎新作はなし。相変わらず山中放牧を経て散らしながら進んで行く。今日は何時かは曉かずしきが朝。腹の底からあらん飛(リ)力(ガ)を出して大声を出し見る。反響なし。もう一回、更に反響なし。福山は強(リ)他を引抜いて高い山で反響を得る山なしとみたす。頂上でツバメの歌(ウラジロ)ヒツヨン、アカモチハ見ゆ。薄い陽光が下にさへえ。激しい運動かぶりは流石に暑くて一息入れ、少しも后見の風景を綱突ね。ヒビキに入った。ヒビキ「福山やあ」と福山や、福山や」と芭蕉モドリをみて見たりする。ヘラヘラヘラと高瀬原が笑つた。

やがて時回りかか刺繡道を二つとて鹿谷下にして下山する。心良い飯山を全身に感じながら帰宅。LEの14年後、新川原が誕生日。

新 入 会 員

37. 河 田 和 男



編集後記

★皆さんの御協力によ
り二回トドケむし第
1号が好評を貰つて子ニヒに合
りましま。何時もお忙しい中
本稿を寄せて下さる皆さんに
感謝の意を表せん。★先日の
昆虫採集会は雨天のため中止と
なりました。残念。又の機会を得
て是非樂しい採集会を開きたい
と思ひます。★先日号題字右ノ
1951年8月 1951年9月と訂正。

★バックナンバー一覧★

すずもし 第5, 6, 7号 各 5.00 + 8.00

鷹形山の昆蟲 10.00 + 8.00

各号とも在庫若干あり

すずもし 第1巻 第10号

昭和 26年10月 25日 印刷

昭和 26年10月 25日 発行

編集者 青野厚昭

印刷 全

発行所 新川郡倉敷西小学校理科教室内

倉敷昆虫同好会